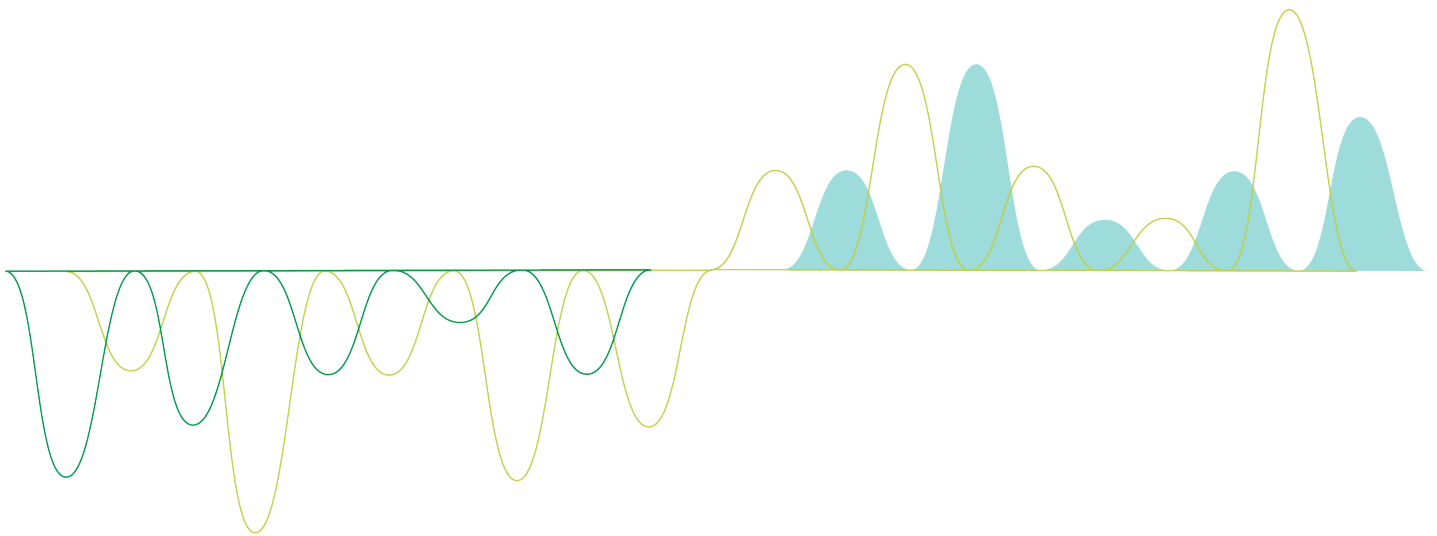


チュートリアル - 基礎から開始

Qlik Sense®

August 2023

Copyright © 1993-2023 QlikTech International AB. All rights reserved.



| | |
|---|-----------|
| 1 チュートリアルへようこそ! | 5 |
| 1.1 本チュートリアルについて | 5 |
| 1.2 前提条件 | 5 |
| 1.3 追加の資料とリソース | 5 |
| 2 Qlik Sense とは? | 6 |
| 2.1 Qlik Sense でできること | 6 |
| 2.2 Qlik Sense の仕組み | 6 |
| Qlik Sense Enterprise | 6 |
| Qlik Sense Desktop | 6 |
| 2.3 アプリモデル | 6 |
| 2.4 連想選択モデル (緑/白/グレー) | 7 |
| 2.5 Insight Advisor | 7 |
| 3 はじめに | 8 |
| 3.1 Qlik Sense Enterprise | 8 |
| Qlik Sense Enterprise インストールでのチュートリアル アプリの保存 | 8 |
| Qlik Sense Enterprise を開く | 8 |
| 3.2 Qlik Sense Desktop | 8 |
| Qlik Sense Desktop の Apps フォルダーへのチュートリアル アプリの保存 | 8 |
| Qlik Sense Desktop を開く | 8 |
| 4 アプリを開いています | 9 |
| 5 シート ビュー | 10 |
| 5.1 ツールバー | 10 |
| 5.2 シート | 10 |
| 5.3 オプション メニュー | 11 |
| 5.4 Insight Advisor | 12 |
| 6 アプリのビジュアライゼーション | 15 |
| 6.1 メジャーおよび軸 | 15 |
| 6.2 ダッシュボードのビジュアライゼーション | 15 |
| フィルター パネル | 16 |
| 円グラフ | 16 |
| 棒グラフ | 16 |
| コンボ チャート | 16 |
| KPI | 16 |
| ゲージ | 16 |
| 折れ線グラフ | 16 |
| 6.3 製品詳細のビジュアライゼーション | 17 |
| ツリーマップ | 17 |
| 6.4 顧客詳細のビジュアライゼーション | 18 |
| 散布図 | 18 |
| ピボット テーブル | 18 |
| 6.5 顧客 ロケーションのビジュアライゼーション | 19 |
| マップ | 19 |
| 7 選択の実行 | 20 |
| 7.1 クリックによる選択 | 20 |
| 7.2 描画による選択 | 21 |

| | |
|----------------------------|-----------|
| 7.3 範囲選択 | 22 |
| 7.4 囲み選択 | 23 |
| 7.5 凡例による選択 | 23 |
| 7.6 ラベル選択 | 24 |
| 8 選択ステート | 25 |
| 8.1 緑、白、グレーの値 | 25 |
| 8.2 最初の選択 | 25 |
| 8.3 地域と製品タイプの選択 | 26 |
| 8.4 除外値 | 27 |
| 8.5 選択除外値から選択値への切り替え | 28 |
| 8.6 選択履歴を戻す | 29 |
| 8.7 ブックマーク | 29 |
| 8.8 お疲れ様でした! | 29 |

1 チュートリアルへようこそ!

この初心者向けチュートリアルでは、Qlik Sense についてご紹介します。Qlik Sense は直感的で使いやすいインターフェースで、データを抽出したり、提示したりするソフトウェア製品です。選択を行うとデータを抽出できます。Qlik Sense は、選択内容に応じてデータを素早くフィルターし、関連のあるアイテムをすべて提示します。このチュートリアルでは、開発者ではなくビジネスユーザーとして Qlik Sense で作業する方法を学びます。Qlik Sense の使用経験やデータベースの知識は必要ありません。用意されたアプリを使って、Qlik Sense がどのように機能するのか、また、Qlik Sense をどのように使用するのかについて、順を追って説明します。

1.1 本チュートリアルについて

このチュートリアルには、次のようなトピックが含まれます。

- Qlik Sense の仕組み
- アプリのビュー
- メジャーおよび軸
- 選択

このチュートリアルを終了すると、Qlik Sense の基本的な内容に対する理解が深まるとともに、Qlik Sense をデータの洞察を得るために活用できるようになります。

使用している Qlik Sense プラットフォームによっては、このチュートリアルのスクリーンショットは、Qlik Sense に表示されているものと少し異なる場合があります。

1.2 前提条件

Qlik Sense の使用を開始する前に、次のいずれかを行う必要があります。

- Qlik Sense Enterprise にアクセスします。
- コンピューターに Qlik Sense Desktop をインストールします。

Qlik Sense Desktop は www.qlik.com からダウンロードできます。インストールについて不明な点がある場合は、help.qlik.com で手順を参照できます。

1.3 追加の資料とリソース

- [Qlik](#) では、さらなる詳細情報を提供する、広範なリソースをご用意しています。
- [Qlik オンラインヘルプ](#) を利用できます。
- 無料のオンライン コースを含むトレーニングは、[Qlik Continuous Classroom](#) で利用できます。
- ディスカッション フォーラム、ブログなどは、[Qlik Community](#) にあります。

2 Qlik Sense とは？

Qlik Sense は、柔軟かつインタラクティブなビジュアライゼーションを簡単に作成し、有意義な判断を下せるようにするためのデータビジュアライゼーション/ディスカバリー製品です。

2.1 Qlik Sense でできること

一般的なビジネスインテリジェンス(BI)製品は、すでにわかっている質問に答えるためのサポートを提供します。しかし、フォローアップの質問をはじめ、レポートやビジュアライゼーションから派生した質問については、どうでしょうか？Qlik Senseを使用すれば、連想的なモデルを駆使して相次ぐ質問に回答し、必要な洞察に到達することができます。Qlik Senseでは、自由にデータを探索し、各ステップで学びながら、それまでの発見に基づいて次のステップに進むことができます。

2.2 Qlik Sense の仕組み

Qlik Senseはユーザーの作業に即座に反応します。Qlik Senseでは、事前定義の静的レポートが不要で、他のユーザーに依存することはありません。簡単なクリック操作でデータについて学べます。Qlik Senseは選択内容に基づき計算し直したデータで、アプリのビジュアライゼーションとビューを更新します。

Qlik Sense Enterprise

Qlik Sense Enterpriseとその根底にあるプラットフォームは、広範にわたる使用例をサポートしています。これには、データ探索をサポートするためのセルフサービスデータビジュアライゼーション、標準ビジネスプロセスやワークフローへの準拠を実現するガイド付き分析、具体的なビジネスプロセスや使用例サポートをするためのWebサイトおよびアプリ、カスタム分析アプリが含まれます。Qlik Sense EnterpriseにはQlik Analytics Platformが含まれています。

Qlik Sense Desktop

Qlik Sense DesktopはWindowsアプリケーションです。各ユーザーがQlik Senseを操作して、簡単なドラッグアンドドロップ操作により、複数のデータソースからカスタマイズされたインタラクティブなデータのビジュアライゼーション、レポート、ダッシュボードを作成できます。これを使用するにはQlikアカウントが必要であり、<https://qlikid.qlik.com/register>で登録できます。

2.3 アプリモデル

アプリはQlik Senseの中核を成すものです。

巨大なビジネスアプリケーションを展開し管理する代わりに、再利用、変更、他のユーザーとの共有が可能な独自のQlik Senseアプリを作成することができます。アプリモデルを使用すれば、専門家から新しいレポートやビジュアライゼーションを入手する必要がなく、その都度、自問自答することで次のステップを見出すことができます。

アプリは、ビジュアライゼーションを含む1枚以上のシートで構成されます。ビジュアライゼーションとは、データやその他の情報を含むチャートやテーブルなどのことです。ビジュアライゼーションで選択を行うと、情報を分析し、データ探索や洞察を取得できます。

2.4 連想選択モデル (緑/白/グレー)

データセット間の関係を探索することは、Qlik Sense の中核的なコンセプトのひとつです。クリックすると、関連するデータ値が強調表示されます。選択した値は緑色でハイライトされ、関連性のあるデータは白、除外 (関連性のない) データはグレーでハイライトされます。こうした迅速なフィードバックにより、新しい疑問について考え、継続的なデータ探索や発見が可能になります。

2.5 Insight Advisor

Insight Advisor は、Qlik Sense を支援する一連の機能です。Insight Advisor は、分析の作成、データの分析、アプリのデータモデルの構築を支援します。次の Insight Advisor 機能をご利用いただけます:

- Insight Advisor 分析タイプ
- Insight Advisor 検索
- Insight Advisor Chat
- Associative Insights
- 推奨チャート
- 推奨される関連付け

Insight Advisor 分析タイプ および Insight Advisor 検索を使用すると、アプリ内で分析結果を素早く作成することができます。Insight Advisor 分析タイプは、選択した分析に使用する分析タイプとデータからチャートを作成します。Insight Advisor 検索では、検索ベースの分析を使用して、検索に基づいたチャートを作成します。Insight Advisor は、アプリ制作者として、アプリコンテンツの制作を支援します。Insight Advisor は、アプリを分析に使用するビジネスユーザーとして、アプリのシートにはない分析についての作成も支援します。

Insight Advisor Chat は、会話分析用のチャットベースのソリューションを提供しています。Insight Advisor Chat を使用すると、ハブからアクセス可能なアプリまで自然言語検索を行うことができます。Insight Advisor Chat は次に、関連するビジュアライゼーションを返します。

Associative Insights は盲点を見つけ、見逃した可能性のある関係を明らかにするのに役立ちます。Associative Insights は選択内容と除外値の寄与度をメジャーに対して比較します。

チャート推奨を使用すると、シートを編集するときにデータ項目を選択して、Qlik Sense によって軸、メジャー、およびビジュアライゼーションタイプを選択できます。提案されたチャートは、変更に基づいて自動的に調整されます。重点的な一連のプロパティを使用して、推奨のビジュアライゼーションをカスタマイズできます。

推奨される関連付けである Insight Advisor は、[データ マネージャー] の [関連付け] ビューでデータテーブル間の関連付けを推奨できます。[Recommended associations (推奨される関連付け)] パネルでは、これらの推奨事項を閲覧し、適用することができます。

3 はじめに

3.1 Qlik Sense Enterprise

Qlik Sense Enterprise インストールでのチュートリアル アプリの保存

Qlik Sense Enterprise を使用している場合は、QMC 経由で *Beginner's tutorial* アプリをインポートし、アクセス権のあるストリームに公開するよう、システム管理者に依頼してください。例えば、デフォルトのストリーム **Everyone** は、すべてのユーザーが使用できます。

Qlik Sense Enterprise を開く

Beginner's tutorial アプリがシステム管理者により、例えばストリーム **Everyone** に公開されている場合は使用開始できます。

ブラウザに <https://<サーバー名>/hub> といった Qlik Sense Enterprise サーバーの Web アドレスを入力して、Qlik Sense Enterprise を起動します。入力するアドレスは、組織内で Qlik Sense Enterprise が実装された方法によって異なります。

Qlik Sense Enterprise が起動すると、ハブが表示されます。

ハブには、すべてのアプリが表示されます。システム管理者が *Beginner's tutorial* アプリをストリームに公開している場合は、アプリがハブに表示されます。

3.2 Qlik Sense Desktop

Qlik Sense Desktop の Apps フォルダーへのチュートリアル アプリの保存

Qlik Sense Desktop を使用している場合は、事前に *Beginner's tutorial* アプリを **Apps** フォルダー内に保存しておく必要があります。フォルダー **Documents (My Documents)** という名前の場合もあります) を開きます。**Apps** フォルダーへのパスは `Qlik\Sense\Apps` です。

Qlik Sense Desktop を開く

Qlik Sense Desktop がインストールされており、*Beginner's tutorial* アプリが **Apps** フォルダに含まれていれば、すぐに起動できます。

デスクトップのショートカットから、または **[スタート]** メニューから Qlik Sense Desktop を起動します。

Qlik Sense Desktop を起動すると、ハブが表示されます。システム メッセージは閉じて構いません。

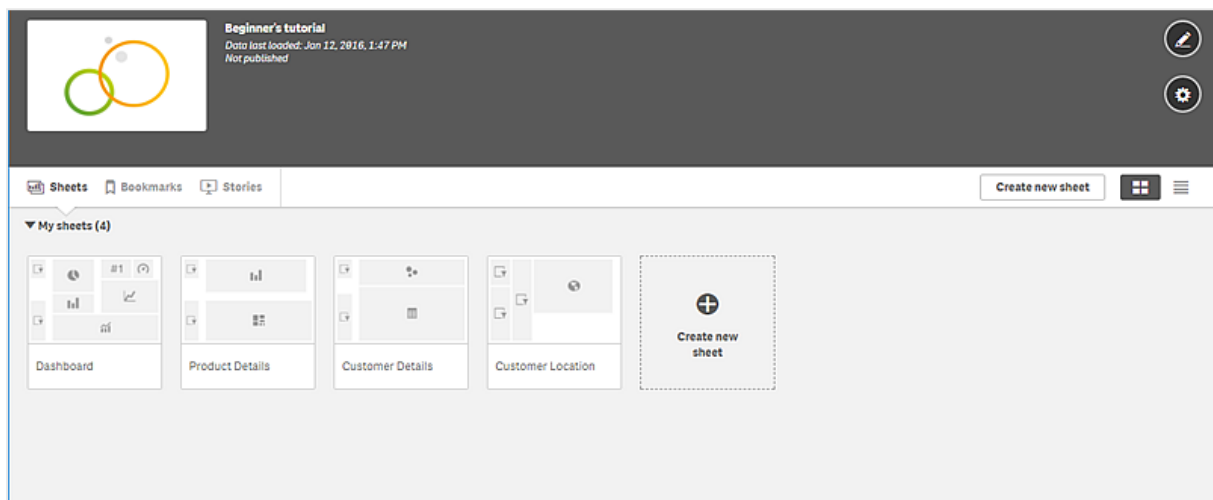
ハブには、すべてのアプリが表示されます。**[アプリ]** フォルダに *Beginner's tutorial* という名前のアプリがある場合、ハブにもこのアプリが表示されます。

4 アプリを開いています

Beginner's tutorial アプリをクリックします。アプリ概要が開き、アプリのコンテンツを確認できます。

既定では、アプリ概要にアプリのシートが表示されます。*Beginner's tutorial* アプリには、4つのシート (*Dashboard*、*Product Details*、*Customer Details*、*Customer Location*) があります。主としてビジネスユーザーであり、開発者ではない場合は特に、作業の大部分はシート内で行います。*Dashboard* をクリックして、シートを開きます。

アプリのシートを表示しているアプリ概要。

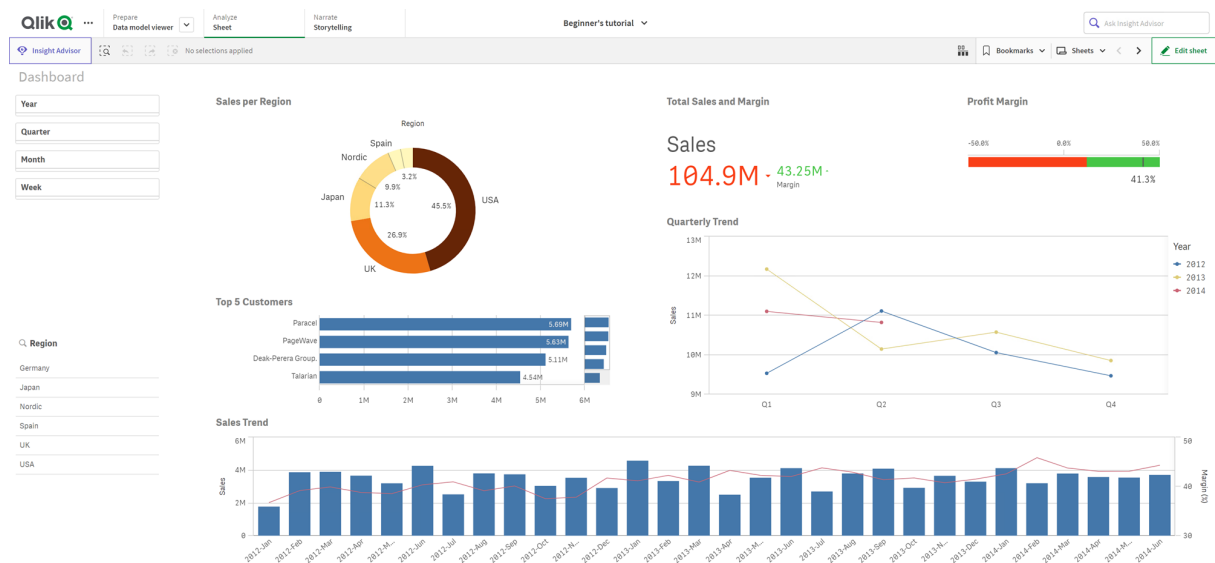


5 シートビュー

シートは Qlik Sense 分析 アプリのコンポーネントです。アプリユーザーにビジュアライゼーションを提示して、データを探索、分析、発見できるようにします。シートは公開または非公開にすることができます。また、アプリを構築する際は、シートでビジュアライゼーションを作成、設計、構成します。

ナビゲーションバーには、アプリ内を移動するためのオプションが含まれます。ツールバーには、シートの移動、選択の作成とクリア、データの検索を行うためのオプションが含まれます。Insight Advisor では、ビジュアライゼーションと分析の作成支援にアクセスできます。シートでは、ビジュアライゼーションを使用できます。

アプリのシートビュー

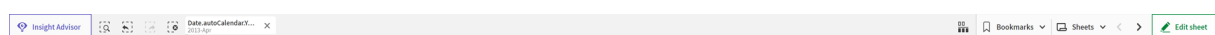


Qlik Sense Desktop には自動保存機能はありません。ツールバーの[保存]をクリックして手動で保存する必要があります。

5.1 ツールバー

ナビゲーションバーには、アプリ内で移動するためのオプションが含まれます。選択バーには、データ内で選択したり、選択をクリアしたり、データを検索したりするオプションが含まれます。選択ツールには、これまでに行われた選択すべてが表示されます。

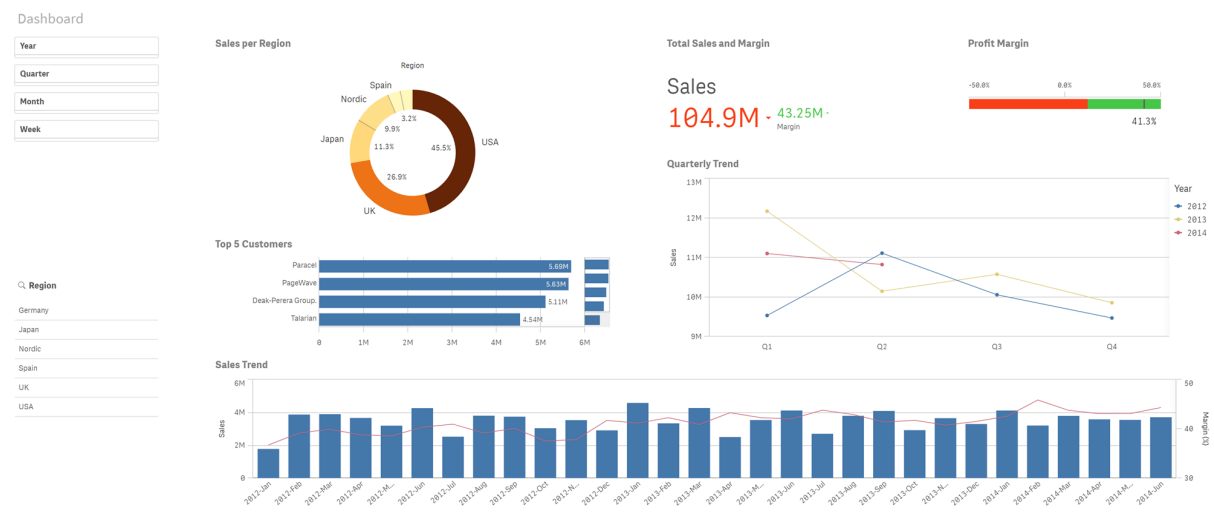
分析モードのシートのツールバー



5.2 シート

シートでは、ビジュアライゼーションを使用できます。

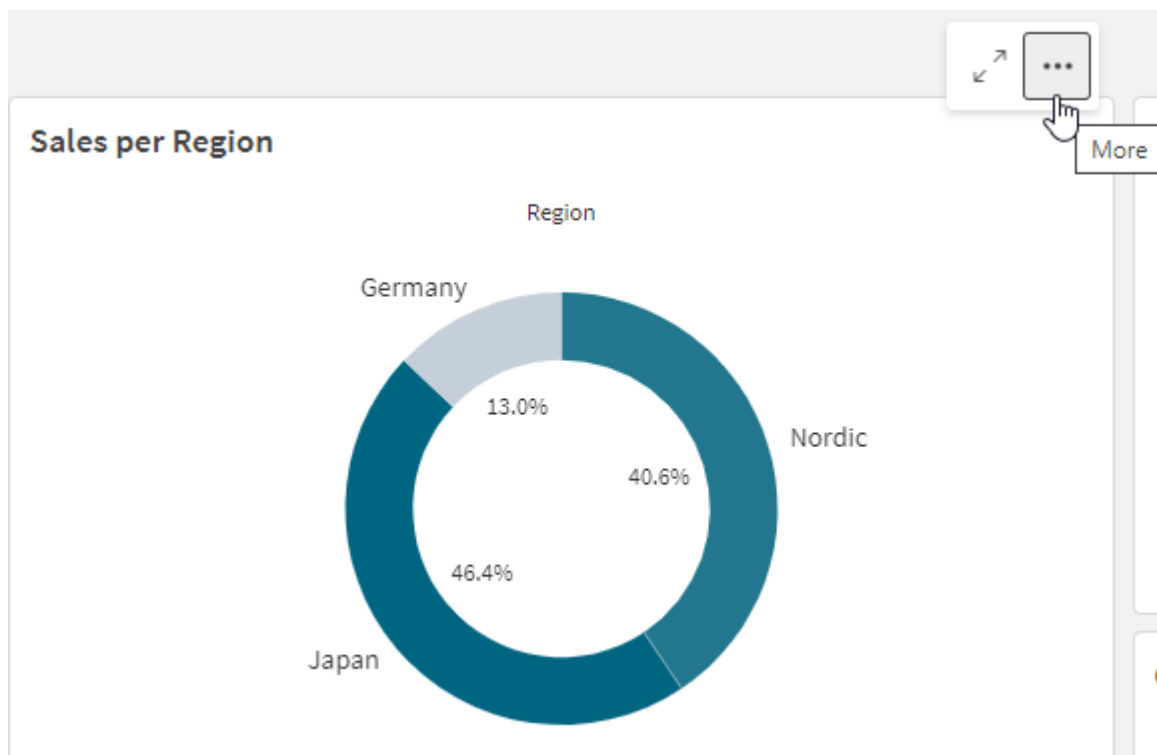
分析モードのシート



5.3 オプションメニュー

オプションメニューでは、チャートのスナップショットの作成、探索メニューで特定のチャートプロパティの変更、全画面モードでチャートの表示ができます。

チャートの横にあるオプションメニュー



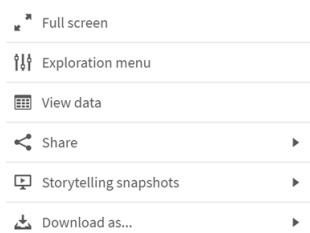
オプションメニューは、次の方法で開くことができます。


- チャートを右クリック。
- ホバーメニュー^{...}をクリック。

メニューオプションは、次の項目によって異なります。

- アプリでチャートを編集または分析 (表示) するかどうか。
- チャートの種類。
- 管理者によって割り当てられた権限。

ホバーメニューが展開されたチャートのオプションメニュー

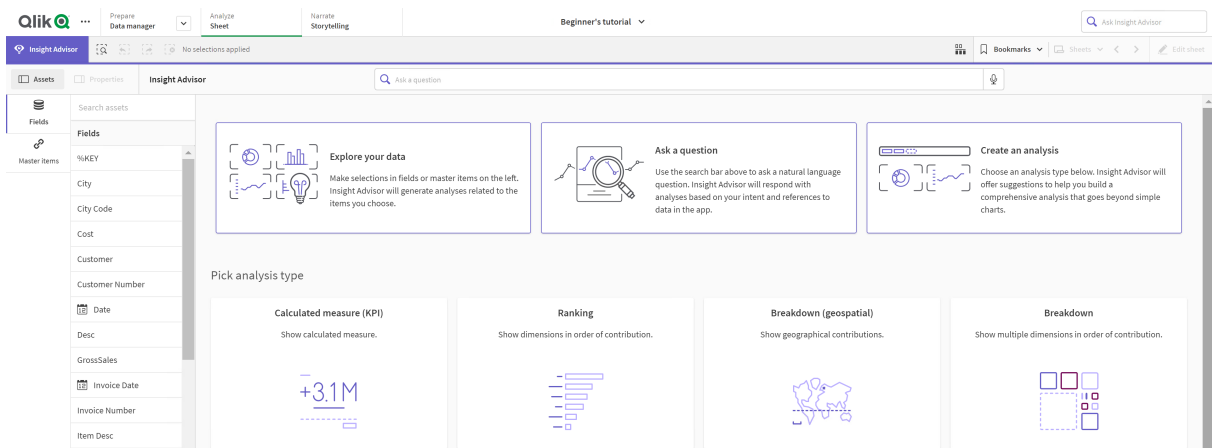


対応するデバイスでタッチ画面モードを有効にすると、メニューは異なって見えます。ナビゲーションボタン(●●●)をクリックまたはタップし、 のトグルを使用して、タッチ対応のオンとオフを切り替えることができます。

5.4 Insight Advisor

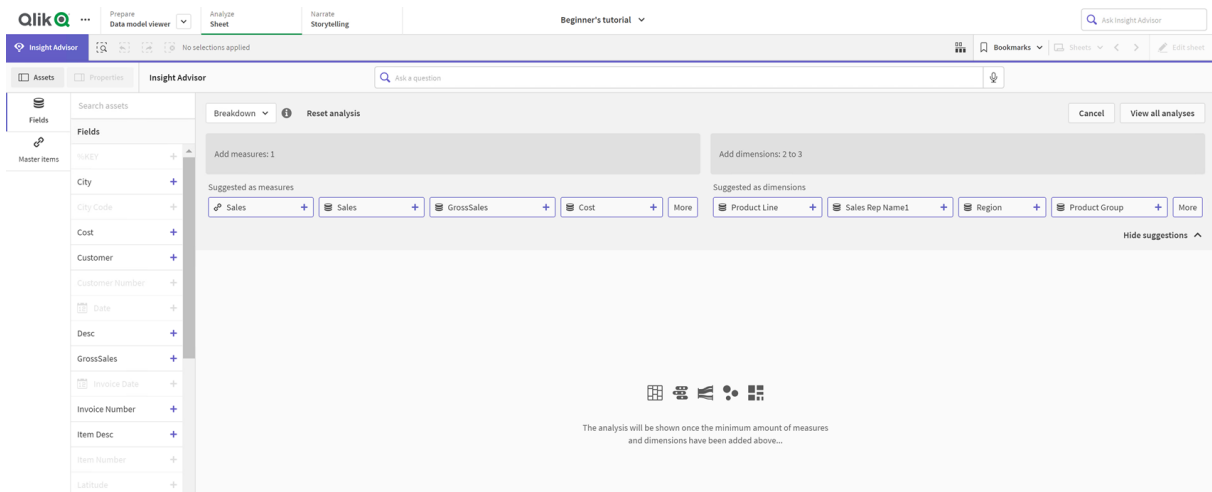
Insight Advisor を使用すると、データから新しいビジュアライゼーションをすばやく作成し、アプリにはないような分析結果を見つけることができます。Insight Advisor にアクセスするには、**[Insight Advisor]** をクリックするか、検索ベースの分析を使用する場合は、**Ask Insight Advisor** 検索バーにクエリを入力します。

Insight Advisor



Insight Advisor 分析タイプを使用すると、さまざまな分析タイプからチャートを作成することができます。表示したい分析や使用するデータタイプを選択すると、Insight Advisor がパラメータからチャートを作成します。

Insight Advisor 分析タイプ



Insight Advisor 検索を使用して自然言語検索ができます。Insight Advisor はアプリのデータをクエリして、質問に一致する結果を返します。また、項目を選択してInsight Advisor 検索でチャートを作成することもできます。

ブラウザがサポートされている言語に設定されていない場合は、英語が使用されます。

[言語] ボタンから言語を選択すると、Insight Advisor が使用する言語を変更できます。

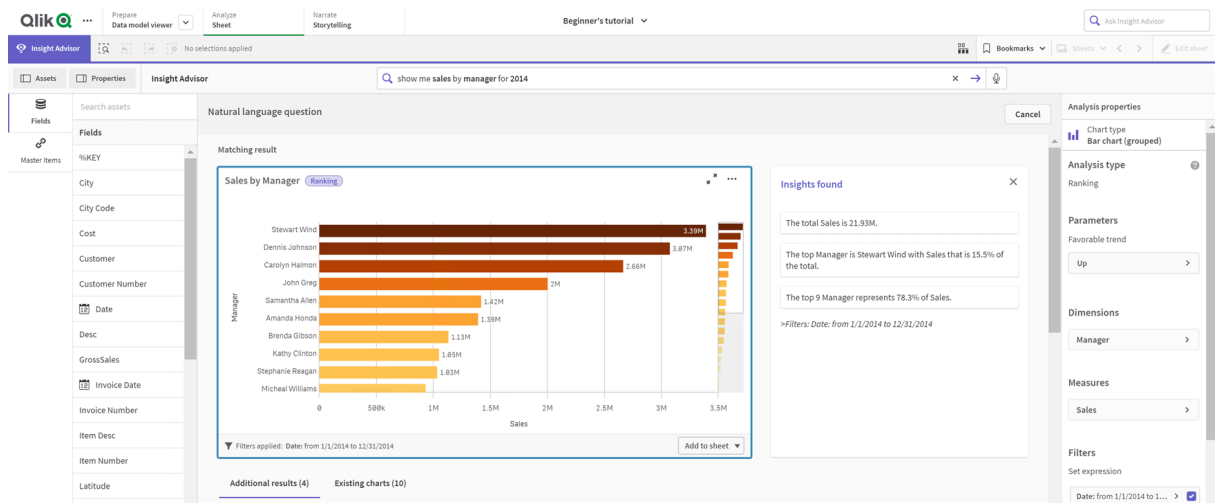


Qlik Sense では英語の自然言語クエリに対応しています。

サポートされている言語に設定されていないブラウザでは、既定で英語が使用されます。クエリに使用する言語は、[言語] ボタンから新しい言語を選択することで変更できます。詳細については、[\[Windows 上の Qlik Sense Enterprise での多言語自然言語クエリの有効化\]](#) を参照してください。

Qlik Sense の展開に Qlik Sense SaaS テナントへのアクセスが含まれている場合、管理者は追加の言語のサポートを有効にできます。Insight Advisor 検索 でサポートされている言語の詳細については、[「サポートされている言語」](#) を参照してください。

Insight Advisor 検索



6 アプリのビジュアライゼーション

ビジュアライゼーションは、シートで探索するためにデータを視覚化するチャート、拡張機能、その他のオブジェクトです。

6.1 メジャーおよび軸

ビジュアライゼーションは少なくとも1つのメジャーまたは1つの軸で構成されています。ほとんどの場合、ビジュアライゼーションには軸とメジャーが両方、場合によっては複数含まれていることがあります。

軸によって、ビジュアライゼーションでデータをグループ化する方法が決まります。多くの場合、軸の値は時間、場所、またはカテゴリを指します。

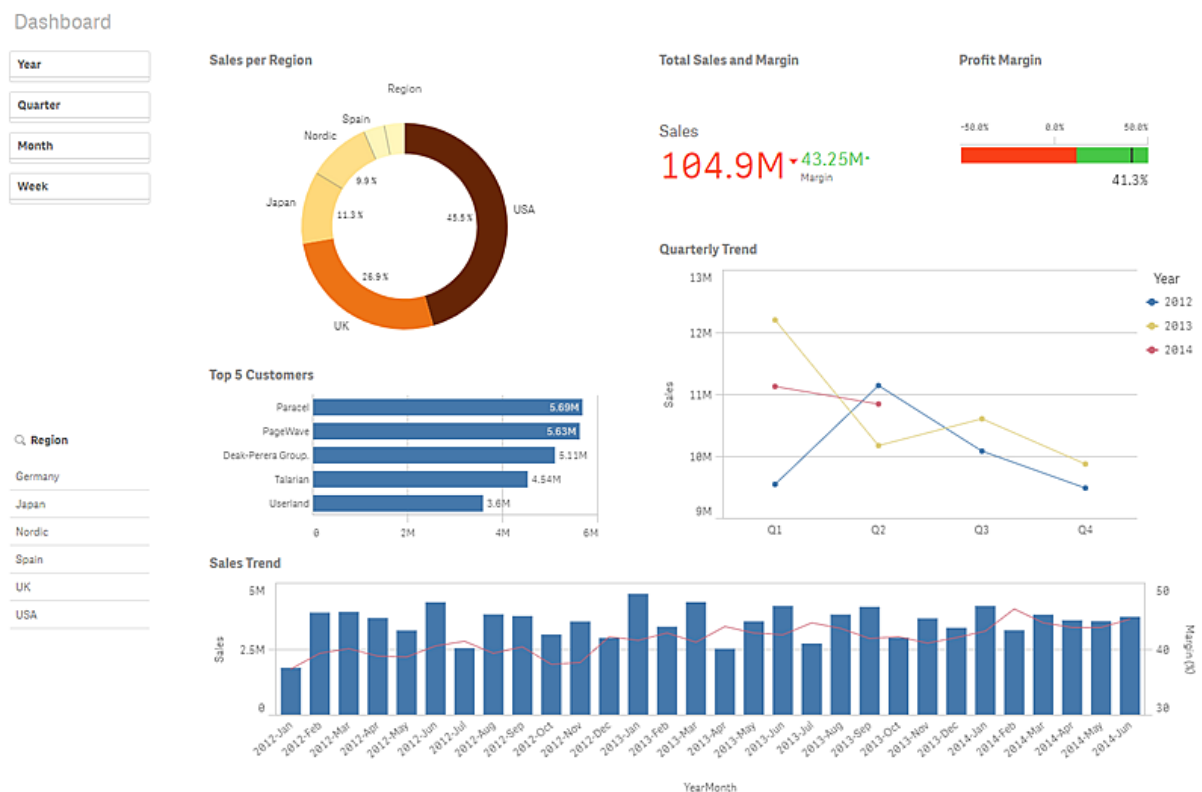
メジャーは何らかの計算の結果です。多くの場合は、**Sum** や **Count**、**Avg** (平均) といった集計結果です。

軸とメジャーをビジュアライゼーションで組み合わせると、例えば、自転車がある地域で指定した期間内に何台売れたのかを表示できます。

6.2 ダッシュボードのビジュアライゼーション

それぞれのビジュアライゼーションには、異なる目的があります。ビジュアライゼーションは完全な正確さを維持しつつ、迅速に意義深い方法でデータを伝えることを目的としています。

さまざまなビジュアライゼーションが含まれる *Dashboard* シート。



フィルター パネル

Dashboard シートには、左側に2つのフィルター パネルがあります。タイトルのない時間フィルター パネルと *Region* です。これらは同じには見えませんが、両方ともフィルター パネルです。*Region* には1つの軸のみが含まれており、軸の値がリストに表示されています。時間フィルター パネルには4つの軸が含まれていますが、スペースが限られているため、リストはすべてパネルに圧縮されています。このフィルター パネルは、限定的なデータセットをフィルターし、分析と探索を可能にすることを目的としています。

円グラフ

時間フィルター パネルの右側には、*Sales per Region* という円グラフがあります。円グラフは、値間の関係や、合計に対する単一値の関係を示します。各セクターは値を示しており、値の数が限定されている限り(10以下)、セクターの相対的なサイズの概要を把握することができます。値はサイズ順です。

棒グラフ

円グラフの下には、*Top 5 Customers* という棒グラフがあります。棒グラフは複数の値を比較したい場合に便利です。それぞれの棒(バー)は、異なる値の相互関係に関する情報を提供します。バーは垂直または水平方向にグループ化または積み上げて表示します。

コンボ チャート

棒グラフの下には、*Sales Trend* というコンボ チャートがあります。コンボ チャートは、同じビジュアライゼーション内で棒グラフと折れ線グラフを組み合わせ、傾向を表示するために使用します。コンボ チャートは、全く異なる目盛りで表されるため、通常は組み合わせて表示することが困難な値の場合に便利です。コンボ チャートは、メジャーに2つの軸を割り当てることでこれを可能にしています。*Sales Trend* コンボ チャートでは、売上高(百万ドル単位、左の軸)と利ざや(パーセント、右の軸)を組み合わせています。

KPI

円グラフの右側は、KPI ビジュアライゼーション *Total Sales and Margin* です。業績の追跡に非常に役に立ちます。KPI ビジュアライゼーションでは、テキスト ラベルを持つ1つまたは2つのメジャー値を表示できます。値に条件付きの色と記号を追加できます。

ゲージ

KPI ビジュアライゼーションの右側には、*Profit Margin* というゲージがあります。ゲージは単一の重要なメジャーの値を表示するために使用されます。この例では、*Profit margin* (利ざや) です。値が分かりやすいように、色が付けられています。

折れ線グラフ

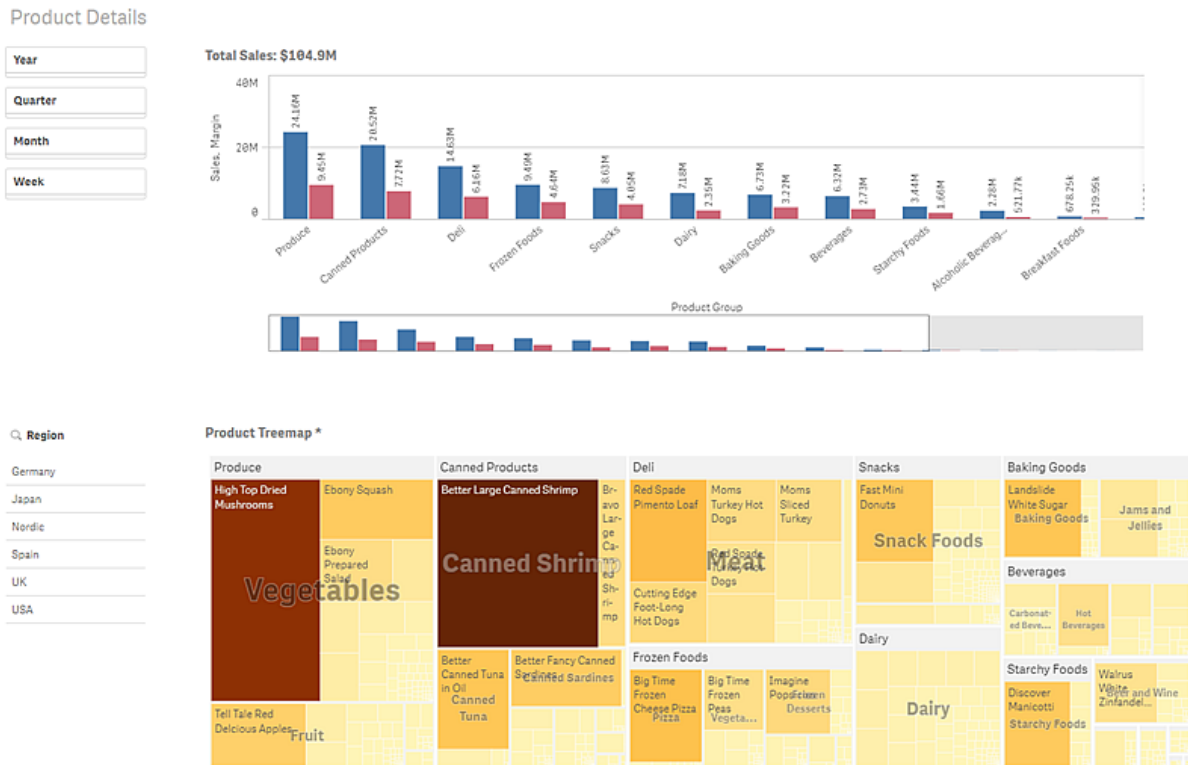
最後に表示されているビジュアライゼーションは、*Quarterly Trend* という折れ線グラフです。折れ線グラフは、時間の経過に伴う動向を表示するために使用され、このグラフでは *year* (年) と *quarter* (四半期) という2つの軸が、2012～2014年の各四半期の傾向を表示しています。

6.3 製品詳細のビジュアライゼーション

次の手順を実行します。

- 右上の ➤ をクリックして、*Product Details* シートに移動します。

さまざまなビジュアライゼーションが含まれる *Product Details* シート。



ツリーマップ

2 番目のシートである *Product Details* には、*Dashboard* シートにはないビジュアライゼーションであるツリーマップが含まれています。ツリーマップは、限られたスペースに階層データを表示したい場合に理想的です。この階層ツリーマップは、*Product Group* と *Product Type*、*Item Desc* という軸で構成されています。ツリーマップでの選択は最上位レベル (*Product Group*) から開始し、選択して確認すると次のレベル (*Product Type*) にドリルダウンし、データ分析を可能にするより詳細なビューが表示されます。ツリーマップのアイテムは、メジャーごとに色分けされています。色が濃いほど、メジャー値は高くなります。

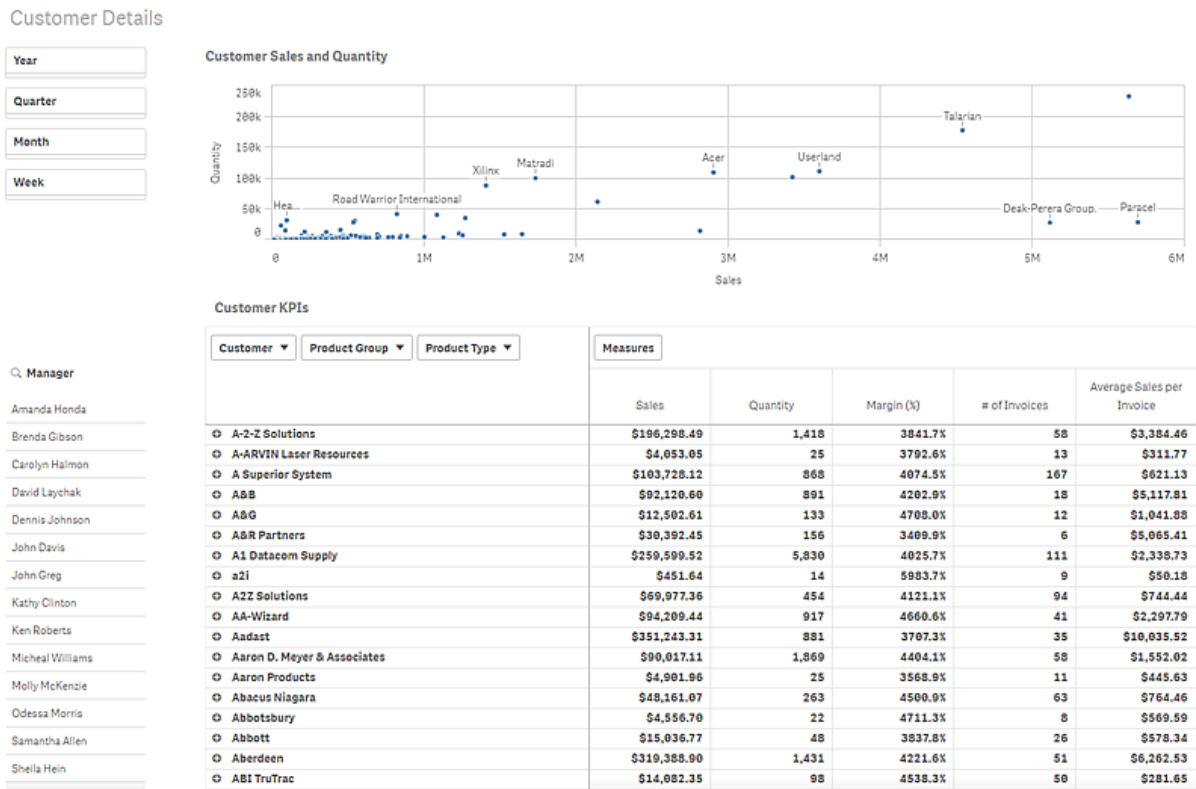
このスクリーンショットは、シートの幅が狭い状態でアプリ内で取得されました。そのため、棒グラフでは、すべての値が表示されていません。このため、棒グラフの下にグラフ全体の縮小版であるミニチャートがあります。ミニチャートにはスクロールバーがあり、ナビゲーションで使用できます。

6.4 顧客詳細のビジュアライゼーション

次の手順を実行します。

- 右上の ➤ をクリックして、*Customer Details* シートに移動します。

さまざまなビジュアライゼーションが含まれる *Customer Details* シート。



Customer Details シートには新しい 2 つのビジュアライゼーション、散布図 *Customer Sales and Quantity* とピボットテーブル *Customer KPIs* があります。

散布図

散布図を使うと、値の潜在的な関係を見つけ、グループから逸脱している値を識別できます。バブルのサイズを利用すると、値の差を表示できます。この散布図のバブルは、**Sales** (売上高) と **Quantity** (量) の関係を示し、各バブルは軸の値である **Customer** (顧客) を示しています。

ピボットテーブル

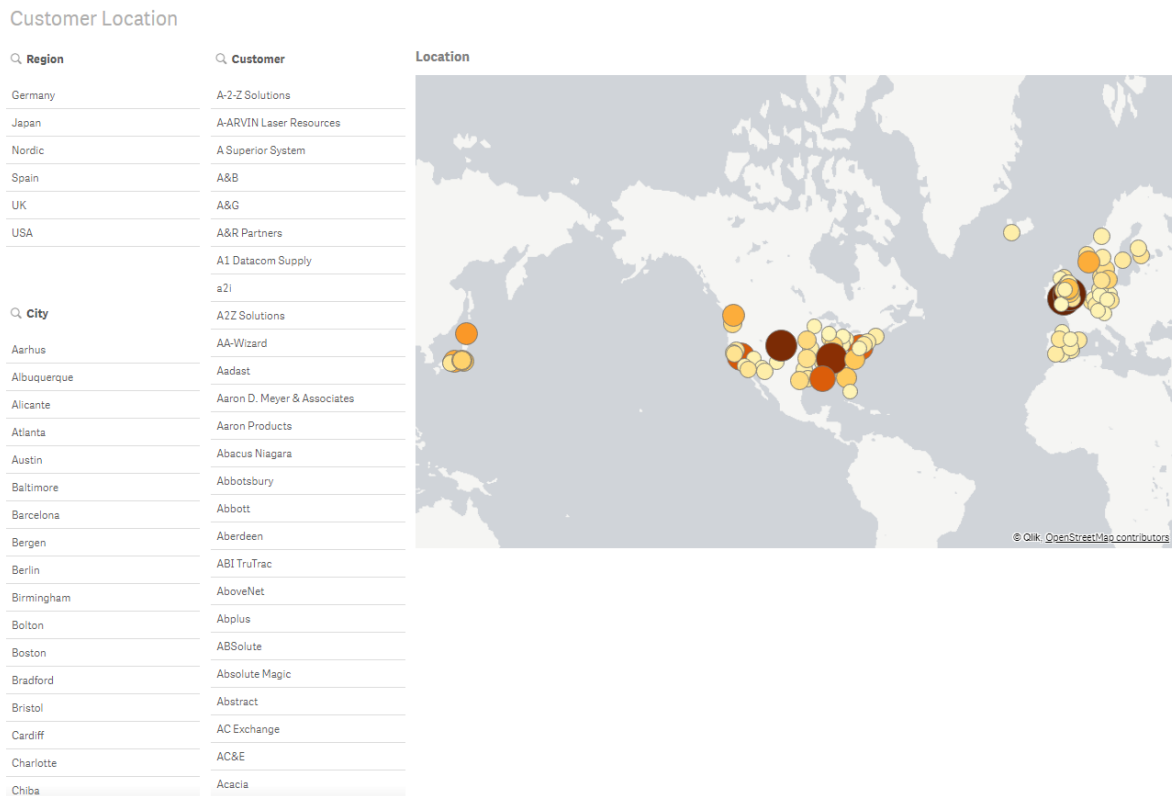
ピボットテーブル *Customer KPIs* は、主要顧客の各数値を示しています。データの表示方法を再編成し、複数の軸とメジャーによって同時にデータを分析し、さまざまなデータ表示するデータのさまざまなビューを表示できます。

6.5 顧客ロケーションのビジュアライゼーション

次の手順を実行します。

- 右上の ➤ をクリックして、*Customer Location* シートに移動します。

さまざまなビジュアライゼーションが含まれる *Customer Location* シート。



マップ

4 番目のシート *Customer Location* には、3 つのフィルター パネルと 1 つの新しいビジュアライゼーションであるマップが含まれています。Qlik Sense では、ポイントレイヤーおよびエリアレイヤーのデータを表示するマップを作成できます。このチュートリアルで使用するマップにはポイントレイヤーが含まれています。ポイントレイヤーは、都市などの関心のある場所をマークするためにポイント座標 (経度と緯度) または場所名を使用して作成されます。

たとえば、マップは地域や場所ごとの売上データをプロットするために使用されます。このチュートリアルでは、マップは顧客の場所を表示するために使用されます。*Region*、*City*、または *Customer* によってフィルタリングすることができます。マップ内でポイントをクリックして、直接選択することもできます。Shift キーを押したまま選択することにより、分析する複数のエリアを選択できます。

7 選択の実行

アプリを使用する際は、選択によりデータセットを削減して、特定の値に焦点を当てることができます。選択にはさまざまな方法があり、ほぼすべてのビジュアライゼーションで実行できます。

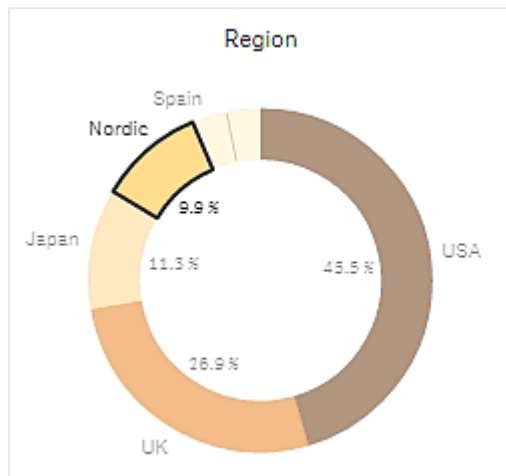
選択はクリックまたは描画により行います。クリックする場合は一度に1つの値を、描画では一度に複数の値を選択できます。利用できる選択方法はビジュアライゼーションにより異なりますが、さまざまなオプションがあるため、必ずスムーズに選択を行う方法を見つけられます。



7.1 クリックによる選択

下の円グラフでは、Nordic 部門がクリックされ、選択されています。他の値は淡色表示になります。✓ をクリックするか、ビジュアライゼーションの外側をクリックすると、選択を確定できます。

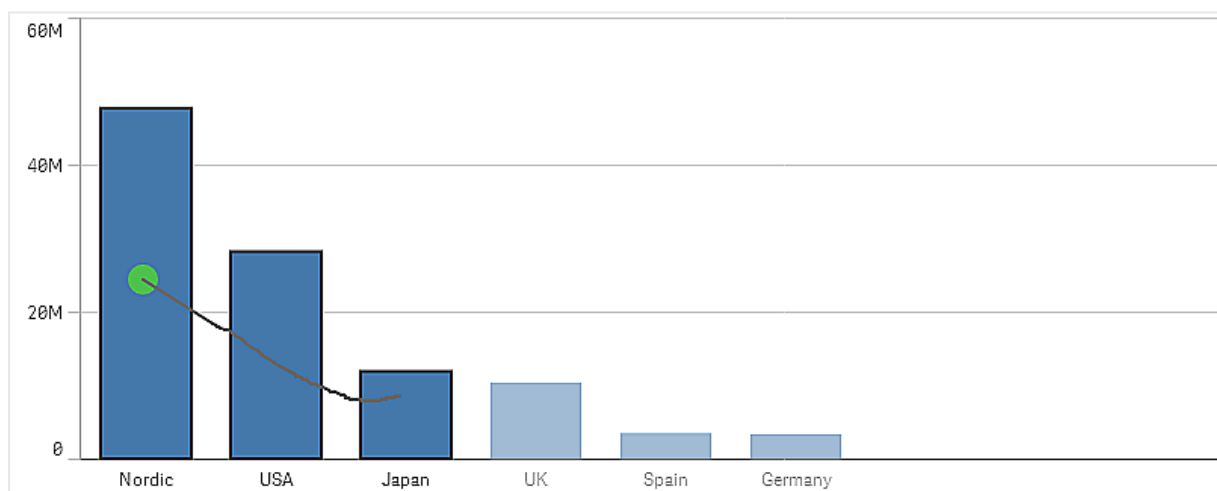
これでNordic 部門が選択されました。



7.2 描画による選択

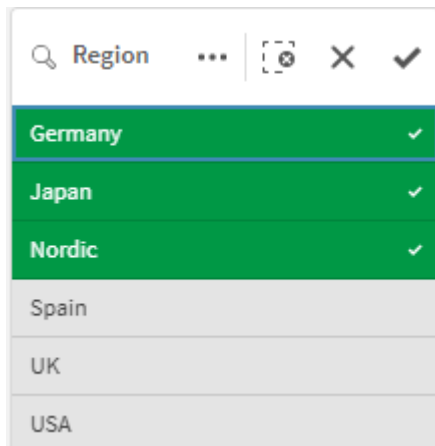
フリーハンドで線を引いて、一度に複数の値を選択できます。選択を解除するには、値を1つずつクリックします。描画による選択をアクティブにするには、ビジュアライゼーションの内側をクリックして \mathcal{P} をクリックするか、Shiftキーを押しながら選択します。

Nordic、USA、Japan が選択されている棒グラフ



リストとテーブルでは、複数の値にまたがる線を引き、その範囲内の値を選択することができます。

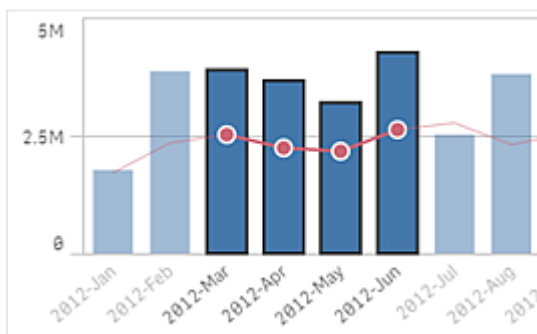
Germany、Japan、Nordic が選択されているRegion フィルター パネル



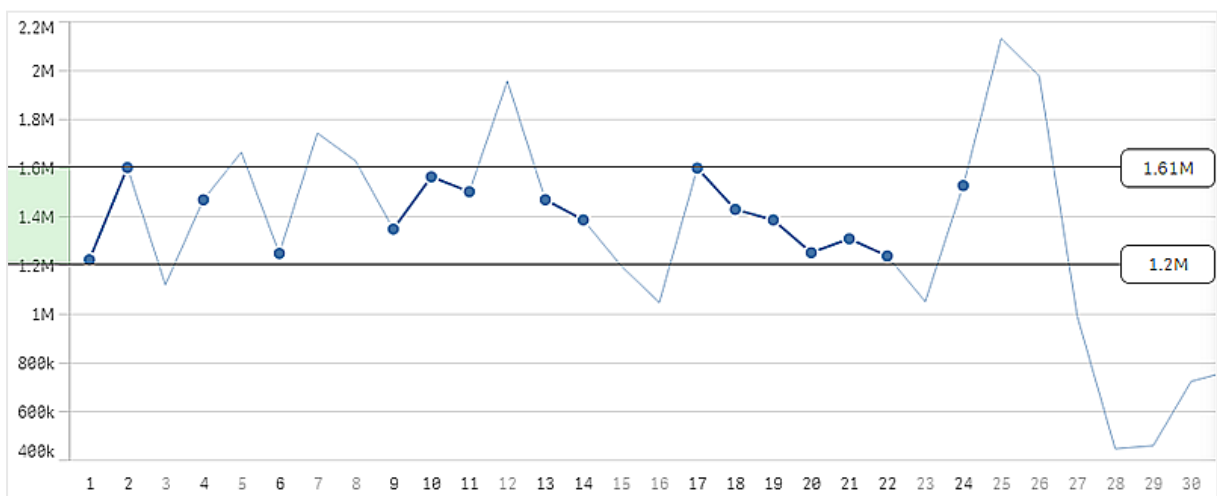
7.3 範囲選択

チャートのすぐ外で y 軸または x 軸に沿って線を引くと選択できます。メジャー値を表示する軸では、範囲ポップアップ上でクリックして特定の数値を入力することもできます。

範囲の選択を使用して選択が行われているコンボチャート



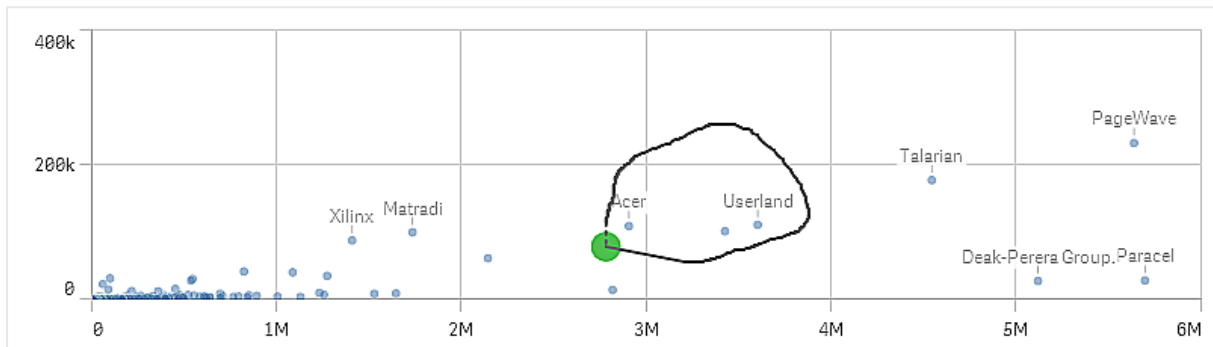
範囲の選択を使用して選択が行われている折れ線グラフ



7.4 囲み選択

フリーハンドで円を描いて、データポイントを囲み選択します。選択を解除するには、値を1つずつクリックします。囲み選択をアクティブにするには、ビジュアライゼーションの内側をクリックして \mathcal{P} をクリックするか、Shift キーを押しながら選択します。

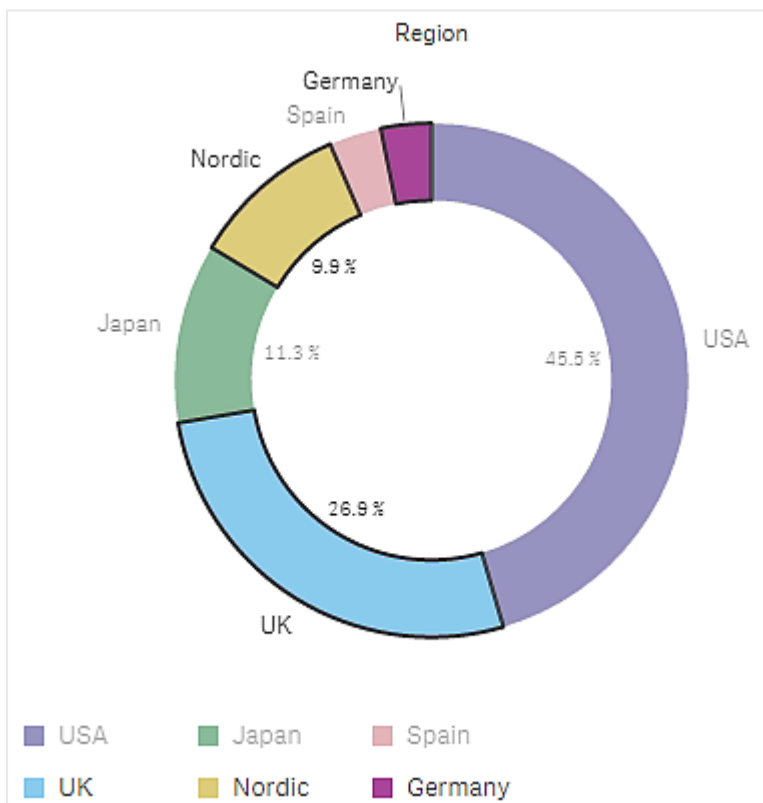
囲み選択を使って散布図で行われる値の選択



7.5 凡例による選択

凡例アイテムをクリックして値を選択します。

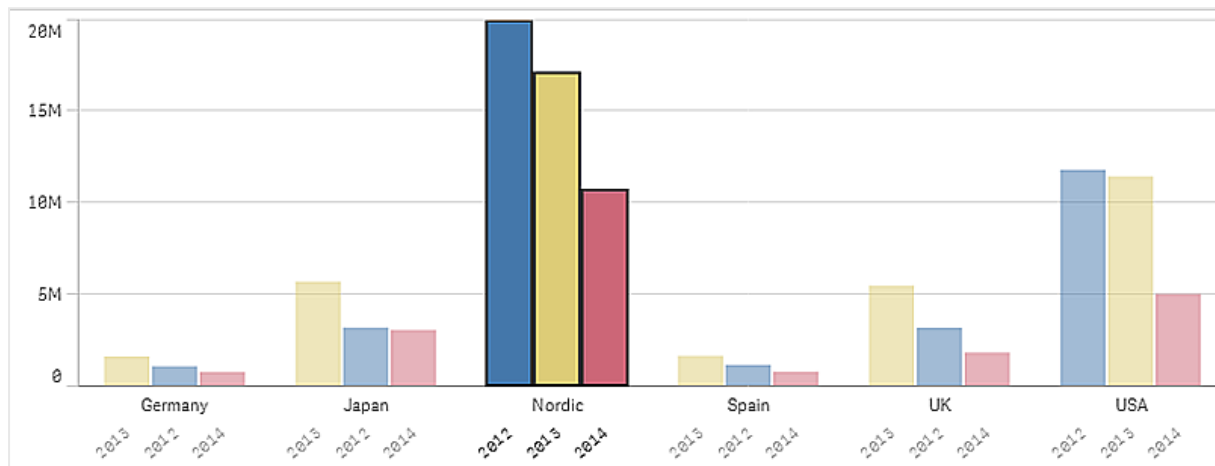
Nordic、Germany、UK 部門が選択されている円グラフ



7.6 ラベル選択

軸ラベル (この例では 2012、2013、2014) をクリックして、対応する値を選択することができます。この例では軸の値がグループ化されているため、国の年度のいずれかをクリックすると自動的にその国のすべての値が選択されます。

2011、2012、2013 のラベルが選択されている棒グラフ。いずれかの年をクリックするとグループ全体が選択されます。



8 選択ステート

選択方法を理解したところで、実際に選択を行うとどうなるのか見ていきましょう。選択により、データのサブセットがフィルターされます。選択は、特定の詳細に注目する場合に使用します。

8.1 緑、白、グレーの値


フィルターボックスで選択を行うと、それによって値の色が変わります。特徴的な色は緑、白、グレーです。これらの色は基本的なステート(選択、絞込、除外)を表します。除外値には3つの種類があります。通常の除外ステートのほかに、並列ステートと選択除外ステートがあります。これらについては後述します。

様々なステートで使用する色

| State | 色 |
|-------|----------------------------------|
| 選択値 | 緑 (選択されたことを表すチェックマーク付き) |
| 可能な値 | 白色 |
| 代替値 | 薄いグレー |
| 除外値 | 濃いグレー |
| 選択除外値 | 濃いグレー (選択されたことを表すチェックマークが付いています) |

カラーコーディングは、追加情報を提供するためのものです。緑色は選択されている値、白は選択が可能な値、グレーは選択に含まれていない値を示します。特にグレーの値は、以前は知られていなかった関係について新しい情報を提供してくれます。選択後に値が不意にグレーに変わった場合、そこから新しいインサイトが得られます。例えば、特定の地域には営業担当者がいない、または製品が特定の四半期にまったく売れなかったといった情報です。

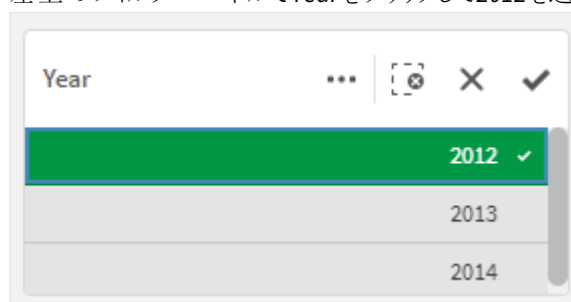
8.2 最初の選択

異なるステートについて理解するため、アプリでいくつか選択を行ってみましょう。まず、*Product Details* シートに移動してください。右上の  をクリックして、*Product Details* シートを選択します。

2012 年の Germany と Japan での異なるタイプの製品の売上を比較していきます。

次の手順を実行します。

- 左上のフィルターパネルで *Year* をクリックして 2012 を選択します。まだ、確定はしないでください。



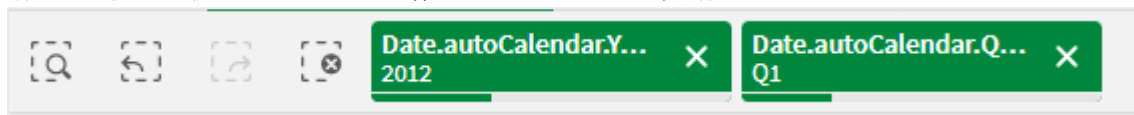
2012 をクリックすると、値が緑色に変わり、選択されたことを示します。他の 2 つの値、2013 と 2014 は薄いグレーになり、代替値であることを示します。つまり、選択からは除外されています。範囲を変更したい場合は 2 つのどちらかを選択できますが、2012 を選択した場合は他の年度を除外した方がいいでしょう。これにより 2012 の値のみを表示できます。

選択を行うと、すぐに他のビジュアライゼーションが更新されます。プレビューがすぐに表示されるため、結果を確認するために選択を確定する必要はありません。✕ をクリックすると、選択を元に戻すことができます。

2012 を選択しても、*Region* フィルター パネルの表示は変わりません。まだ白いままで、値に関連性があり、選択可能であることがわかります。*Total Sales* という棒グラフが更新され、2012 年の売上のみが表示されます。同様に、*Product Treemap* には 2012 年に販売された製品グループが表示されます。2012 を再度クリックして選択解除すると、その違いを確認できます。何も選択されていない状態では、棒グラフとツリーマップには 3 年間の値がすべて表示されますが、2012 を選択すると、その年に関連のある値だけが表示されます。

次の手順を実行します。

1. 2012 が選択されていることを確認します。
シートの上にある選択バーに新しい選択が表示されます。これについては後述します。
2. 時間フィルター パネルで、*Quarter* をクリックして *Q1* を選択します。選択を確定します。
新しい選択が選択バーに追加され、棒グラフとツリーマップが更新されます。



3. これまでのところ、2012 と *Q1* を選択しました。*Month* をクリックします。
Jan、*Feb*、*Mar* が絞込値 (白) であり、他の月は除外されていることがわかります。絞込値は第 1 四半期 (選択済み) に含まれている月なので、これは理にかなっています。選択可能な月を 1 つ、または 2 つ選択すると、さらに選択を絞り込むことができます。3 つの月をすべて選択しても新しい選択にはなりません。すでに選択されている *Q1* を選択することと同じだからです。
4. ✕ をクリックすると、選択することなく *Month* を閉じることができます。
5. 選択バーで ✕ をクリックして、*Q1* の選択をクリアします。
これで、選択にある 2012 だけが唯一の選択となりました。

8.3 地域と製品タイプの選択

次に、*Germany* と *Japan* の生鮮野菜の売上を比較してみましょう。

次の手順を実行します。

1. *Region* フィルター パネルで *Germany* と *Japan* を選択して確定します。
 2. *Product Treemap* で *Produce* を選択して確定します。
 3. ツリーマップで、製品タイプとして *Vegetables* を選択します。
Vegetables を選択したことで、同じ *Produce* の製品グループに属する他の製品タイプ (*Fruit*、*Specialty*、*Packaged Vegetables*) は除外されました。
- 2 つの国の関係を確認するには、別のシートに移動する必要があります。

4. 右上の  をクリックして、*Dashboard* シートに移動します。

Sales per Region という名前の円グラフを見ると、*Japan* の 2012 年の売上は *Germany* の約 2 倍であることがわかります。

ナッツやアーモンドなどの *Specialty* の数字を確認するには、次の手順を実行します。

5. 選択バーで *Product Type* をクリックしてリストを開きます。
6. *Vegetables* の選択を解除し、代わりに *Specialty* を選択します。確定します。

この選択により、*Germany* が売上高の最も高い国として、円グラフの最初のセクション (時計の 12 時の位置から時計回り) に表示されます。

Dashboard シートを見ると、他にもいくつかの点に気が付きます。このシートの選択内容は、*Product Details* シートのものとまったく同じです。選択はグローバルです。つまり、ビジュアライゼーションで選択を行うと、どのシートにあるかに関わらず、関連するすべてのビジュアライゼーションでその選択が反映されます。その結果、選択バーもすべてのシートで同様に表示されます。選択バーには、選択を行ったシートに関係なく、すべての選択が表示されます。

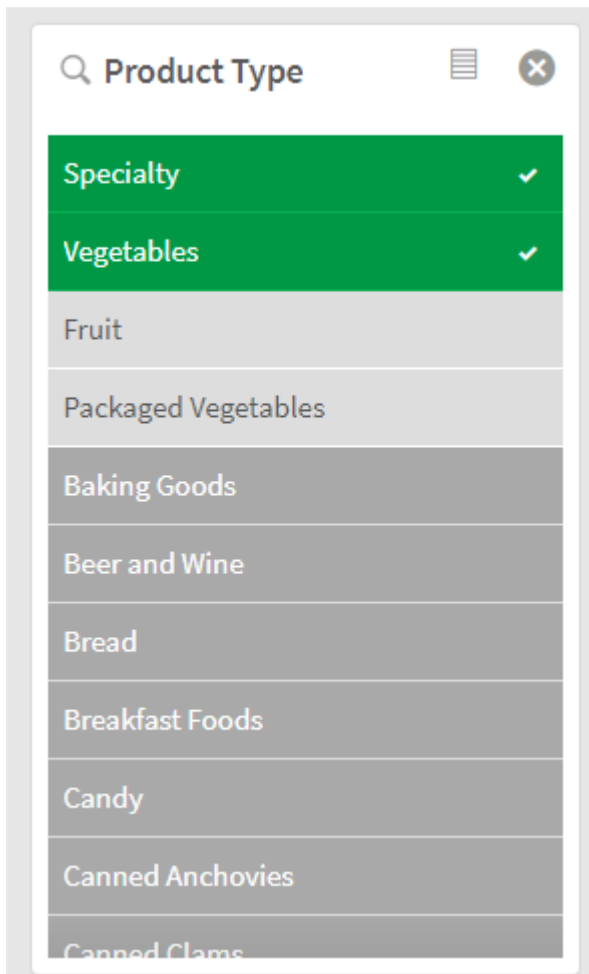
7. *Customer Location* シートに移動します。

地域 *Germany* と *Japan* が選択され、これらは *Location* マップにデータが表示されるエリアだけであることがわかります。

8.4 除外値

Vegetables の選択を解除し、代わりに *Specialty* を選択した場合、最初の 4 つの値が選択可能な値です。

Specialty を選択した場合、いくつかの値は代替値 (薄いグレー) であり、いくつかは除外値 (濃いグレー) です。



Specialty が選択されており、続く3つの値が代替値となっています。これらの値は *Specialty* の選択によってのみ除外されています。それに対して、*Vegetables* より下の値は別のリストの選択によってすでに除外されているため、濃いグレーで表示されています。

除外値 *Bread* を選択すると、どうなるでしょうか。

次の手順を実行します。

- *Product Type* の選択リストで、*Bread* を選択します。

値は選択されますが (チェックマークが付きます)、濃いグレーのままです。つまり、選択除外値となります。これは、*Bread* の選択と既存の選択の間に矛盾があるためです。しかし、値は選択されているため、除外の原因となっている選択が解除されたり、この値が続する製品グループが選択に加えられた場合には緑色になります。

8.5 選択除外値から選択値への切り替え

選択除外値である *Bread* を選択値に変えるには、次のいずれかの処理を行います。

- *Product Group* で、代替値として薄いグレーで表示されている値 *Baking Goods* を選択します。
- *Product Group* で *Produce* の選択を解除します。
- *Product Type* で *Specialty* の選択を解除します。

8.6 選択履歴を戻る

Vegetables の選択を元に戻したい場合は、どうすればいいでしょうか。選択をすべて覚えている場合は、一から選択するのが最も簡単な方法です。ただし、選択内容が複雑な場合には、すべての選択を覚えておくことは難しく、何かを忘れてしまうこともあります。このようなケースでは、選択履歴を戻る方法が確実です。

選択バーの選択履歴オプション



選択バーには、選択履歴を戻ったり先に進むためのオプションがあります。このセッションで行ったすべての選択が保存されており、戻る (←) または進む (→) オプションを使用すると、特定の選択に戻ることができます。履歴は一度戻らなければ、先に進むことはできません。デフォルトで、選択履歴の最後のステップに位置しているため、このままでは先に進めません。まだ、先のステップが存在しないからです。

8.7 ブックマーク

ブックマークを使用すると、特定の選択状態を保存できるため、後でアプリに再度適用して他のユーザーと共有できます。レイアウト情報はブックマークに保存できるため、ユーザーはブックマークを適用するときにアプリ内の正しい場所に移動できます。

8.8 お疲れ様でした!

このチュートリアルはこれで終了です。これで、Qlik Sense の基礎、選択を行い、結果を解釈する方法を習得できました。[ようこそ] ページには、より詳しい情報を掲載したリソースをご用意しています。ぜひご利用ください。アプリの作成方法については、*Qlik Sense* チュートリアル- アプリの構築をダウンロードして、アプリの構築に関するあらゆるステップを学習してください。